

思い出

第十八代 森

實

創立百年、おめでとうございます。

先輩教職員と現在の教職員、そしてここに学んだ多くの卒業生の方々に築かれ培われた教育と学びの百年の伝統は誠に意義深いものです。

その百年のうち、教諭として四年、校長として二年の、ほんの六年間が私の在職期間となります。

京都府立高校の卒業生が京都の国公立、有名私学に入学出来ない。学力、進学について私立高校に圧されている。という厳しい批判の声が府民の間に起こり、京都の教育三原則の総合性地域性などが見直され、府の教育改革が動き始めました。教職員の勤務についても制度改革が行われました。改革には反対が当然ありました。

又、日の丸、君が代を学校の式典の中で定着させる問題もこの頃始まりました。これには更に強い反発があり騒がしい学校現場でした。

そのような時、校長として着任しました。「火中に栗を拾う。」その戦士のような状況でした。生徒には何が良いのか、生徒の学力、進学などの質の向上等々、生徒中心で学校運営を進め、難関を乗り切りました。

明るい話題は、サッカー部が平成四年度全国高校選手権で優勝戦を国立競技場で闘い、準優勝した事です。この年ラグビーは市立伏見工業高校が花園で全国制覇しました。高校時代の経験から府高体連ラグビー専門部長を務めていた関係で平成五年の正月は東京、花園と大忙しでした。サッカーの生徒達は残念ながら準優勝でしたが、憧れの国立競技場でプレイ出来たことは幸せなことでした。

学校をオープンにという風潮がこの頃あり、平成五年に学校の塀を取り去り、生け垣と鉄柵で仕切る工事を行いました。そのため校庭の立派な古木を伐ったりし、付近の住民からお叱りを受けたりしました。いずれ緑を多くする為と弁解に努めたものです。

それから又校舎改築が行われ当時の工事の姿がないのも一つの感慨です。

現在の校門の門標は昭和六十三年十二月の創立八十周年（山城高四十周年）記念事業のものです。私の前任の森貞男校長が当時同窓会を担当されていて、田邊高校に勤務していた私に揮毫を依頼され、私が書いたものです。過日新しい学校を訪問しましたところ、そのまま掲げられていまして感激いたしました。